

(電子メール施行)
農 技 第 1753 号
令和5年10月13日

関係各位

兵庫県病害虫防除所長

令和5年度病害虫発生予察注意報 第1号を発表します。

ハスモンヨトウおよびシロイチモジヨトウのフェロモントラップでの成虫の誘殺数が9月以降平年より多く推移しており、圃場でも幼虫の発生が広く確認されています。今後の気温が平年並～高い状態で推移すると予想されていることから、野菜類を中心に被害が多くなる恐れがあります。圃場における発生状況に注意して、適切な防除指導をお願いします。

令和5年度病害虫発生予察注意報 第1号

「ハスモンヨトウ・シロイチモジヨトウの発生状況と防除対策」

1 対象作物	野菜類・花き類・豆類
2 病害虫名	ハスモンヨトウ・シロイチモジヨトウ
3 発生地域	県内全域
4 発生程度	多い
5 発生時期	10月中旬～11月下旬
6 発生状況	

(1) ハスモンヨトウの発生状況

- ① 加西市に設置しているフェロモントラップにおいて、9月中旬以降、成虫の発生が平年を上回っている(図1)。
- ② 9月下旬に加西市のダイズ予察圃場で実施した調査では、1aあたりの白変葉(群棲する若齢幼虫による食害:写真1、2)が、白ダイズで4箇所(平年0.8箇所)、黒ダイズで4箇所(平年0.7箇所)と、平年より多い。
- ③ 神戸、播磨地域のキャベツ、ハクサイ、ダイコン、ブロッコリー圃場、淡路地域のキャベツ・レタス圃場において広く幼虫の発生を認めている。

(2) シロイチモジヨトウの発生状況

- ① 加西市および南あわじ市に設置しているフェロモントラップにおいて、6月以降

の成虫の発生が平年を上回り、幼虫の発生圃場率が高くなったことから、7月14日付けで「病害虫発生予察防除情報第4号」を発表し、注意喚起を行っているところである。

- ② 加西市に設置しているフェロモントラップにおいて、9月以降も成虫の発生は平年を上回る状態が続いている（図2）。
- ③ 神戸、播磨地域のキャベツ、ハクサイ圃場、淡路地域のキャベツ、レタス圃場において幼虫の発生を広く認めている。

7 今後の予想

- (1) 大阪管区気象台の近畿地方の1ヵ月予報（10月5日発表）によると、近畿地方の向こう1ヵ月の気温は平年並～高い状態で推移すると予想されている。
- (2) これまでに成虫の活動が活発な状態であったことと、今後しばらくこの状態が続くと考えられ、幼虫が多発し被害も長期に及ぶことが懸念される。

8 防除上の留意点

- (1) 両種とも加害作物は、キャベツ、ハクサイ等の野菜類から、カーネーション、キク等の花き類、ダイズ、アズキ等の豆類と広範囲におよぶ。
- (2) 卵は鱗毛で覆われた卵塊で産み付けられ（写真3）、孵化直後の若齢幼虫は集団で加害する（写真2）。卵塊や分散する前の若齢幼虫の早期発見に努め、速やかに捕殺する。
- (3) 成虫の産卵防止対策には防虫ネット（目合4mm以下）、黄色灯、性フェロモン剤（交信かく乱剤）の利用が有効である。
- (4) 中・老齢幼虫には殺虫剤の効果が低くなるので、薬剤防除は若齢幼虫期に行う。シロイチモジヨトウでは、一部のジアミド系薬剤の殺虫効果が低く、圃場間差もみられているので、使用にあたっては防除効果の確認に努める。
- (5) 防除薬剤については、兵庫県農薬情報システムを参考に選定し、農薬使用基準を遵守すること。（<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>）

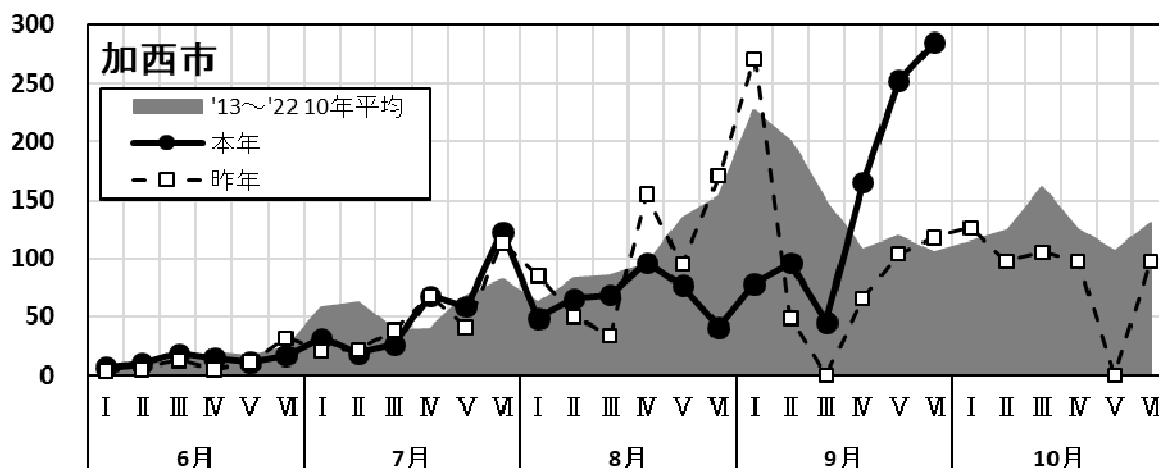


図1 フェロモントラップにおけるハスモンヨトウ誘殺数の推移

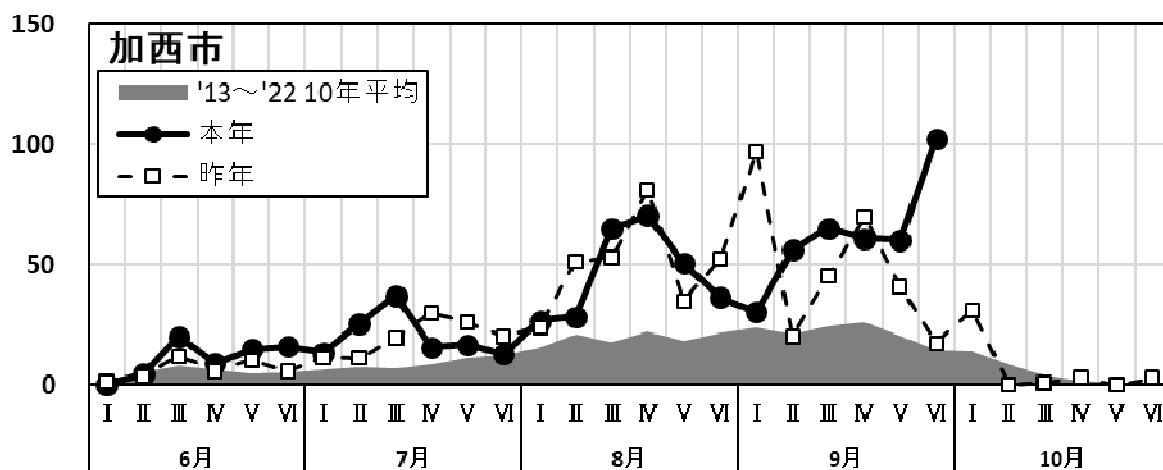


図2 フェロモントラップにおけるシロイチモジヨトウ誘殺数の推移



写真1
ハスモンヨトウ白変葉
※白変葉：初期食害葉



写真2
ハスモンヨトウ若齢幼虫



写真3
ハスモンヨトウ卵塊



写真4
ハスモンヨトウ中齢幼虫
頭部の後ろに1対の目立つ斑紋
がみられる（黄矢印）



写真5
シロイチモジヨトウ中齢幼虫



写真6 ハスモンヨトウによるキャベツ被害葉



写真7 シロイチモジヨトウによる被害葉
（左：大豆、中：ネギ、右：カーネーション）

*この情報は、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページに掲載しています。

[\(https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/\)](https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/)

問い合わせ先 兵庫県病害虫防除所 0790-47-1222